



図録「伊場遺跡と弥生時代後期の文化」の販売と期間限定展示について

浜松市文化財課と浜松市博物館では、弥生時代後期の伊場遺跡群について資料の再整理を行っています。今回、その資料整理の成果として、伊場遺跡群に関する図録を刊行・販売します。

また、併せて浜松市博物館では、通常では保護のため非公開としている資料を含め、伊場遺跡の代表的な出土遺物を期間限定で展示公開します。

記

1 図録の販売

- 販売開始日 令和5年7月11日(火)
- 販売場所 浜松市博物館、浜松市文化財課(市役所本館3階)、
浜松市地域遺産センター
- 体裁 A4判 本文65ページ フルカラー
- 内容 弥生時代後期における伊場遺跡群の特徴や発掘調査の経過、出土遺物からみた文化や交流の様相などについて、写真や図を中心に紹介しています。
- 販売価格 700円



2 期間限定展示

- 期間 令和5年7月11日(火)～令和5年8月21日(月)
※休館日：8月14日・8月21日を除く月曜日(祝日の場合翌日)及び7月26日(水)
- 場所 浜松市博物館 常設展示室(弥生時代のコーナー)
- 内容 通常は非公開である木甲の実物を展示するほか、約70年前に伊場遺跡発掘調査の端緒となった装飾付の土器や小銅鐸など伊場遺跡群の主要遺物を数点公開します。
- 観覧料 大人310円、高校生150円
※中学生以下及び70歳以上の方、各種障がい者手帳をお持ちの方と介添の方1名は無料

3 伊場遺跡とは

伊場遺跡は、中区東伊場二丁目周辺の海岸平野に立地している、弥生時代から平安時代を主体とする遺跡で、昭和24年に発見されて以降、多数の発掘調査が行われてきました。隣接する遺跡を含めて伊場遺跡群と総称されており、特に弥生時代後期の遺構・遺物が多数確認されています。

近年では、伊場遺跡群内の梶子遺跡や鳥居松遺跡等の出土遺物も増加しており、それらの資料を総合的に把握していくため、伊場遺跡群から出土した弥生時代後期資料の再整理を行っています。





伊場遺跡の環濠 3重に巡っており、木甲など重要遺物が多数出土しています。環濠に囲われた空間が特別な場所であったことがうかがえます。



鱧のような装飾のある壺 戦後間もない時期に発見され、伊場遺跡調査の端緒となった土器です。



小銅鐸 全高8cmと小型の青銅製品で、銅鐸を模倣したものと考えられています。



木甲（木製よろい） 背側（手前左）と胸側（手前右）の破片（奥は復元品）。彫刻による精緻な文様と赤・黒の顔料で彩られています。装飾性の高さから、実戦用ではなく儀式用と考えられています。



装飾性の高い高杯 伊場遺跡群に特徴的な土器で、脚部に突帯と木の葉形のスカシ孔を有します。同時期の木製高杯と同じような装飾がみられることから、それを模倣したものと考えられています。